

4156 地球のかおり：「曙光絶景」(産経新聞) 心模様

中国黄山では、くっきりと晴れた光景を、見るのは難しいらしい。
よほど運がいいのか、この眼前の光景に出くわした。
深く、長〜く深呼吸。身体と心と呼吸が整った瞬間である。今年も頑張るぞ！

中国黄山は、安徽省の南部に位置する、72の奇峰からなる山岳風景区。
奇峰も素敵だが、眼前の光景は、心が落ち着く。
私が訪ねたのは、12月下旬。1月上旬まで、山ごもり。
夏でも、防寒具が必要なほど、寒い。氷点下になることもある。
今は、夏ではない。もちろん、路面は凍結している。水も、凍っている。
アイゼンも持参。臨機応変で移動する。

確かに寒いですが、空気が澄んでいる。私には、何よりも有難い。
早朝から、足元の悪い、道なき道を、かきわけて、進む。
足元が、まだ暗い夜明け前からの、ベストポジション探し。私には好きなこと。
苦にならない。自然が思い通りにならないのを、体感、痛感している。

人間の立場で、言うならば、大自然は、実に、気まぐれ。
なるようにしかならない。しかし、しぶとく、しなやかに、辛抱強く、
しかも、したたかな、精神と気力で、チャレンジ。

自然に対して、謙虚で、敬意をはらう大切さも、共生も、痛感。
山ごもり中に、ものに出来ればよし。
そううまくは、行かない。しかし、可能性がないわけではない。
時に、神様も味方してくれる。スマイル、オン、ミー。
思い通りに、行かないから、面白い、という考え方。心の余裕を持ちたい。

謙虚に、黙々と、チャレンジしていると、道は開けるもの。

今、色彩を愛でる言葉が見つからない。

言葉の表現を、考える知識が、働いているのでなく、

感動、感性が、私を占拠している。

寒さのせいではない。五感がふるえる。一期一会。臨場感。

この瞬間があるから、冒険もする。

夢挑戦や、ひとり旅が、やめられない原因は、夢と感動。

時間が、どれだけ、たったのかわからない。

足元の冷たさが、痛さに変わったので、我に返った。

至福の時間だった。

神がいるとしたら、機会をいただいた、神様に、感謝したい。

年末年始だけでなく、寺社仏閣を、訪ねるのは、日本人だからなのか。

ただし、お願いのためでなく、**感謝**と**報告**のため、

2019年、2020年・令和の年末年始、心身健康で、お参りが、できたことに感謝。

日々が大切だが、2020年も、神様にお礼と報告ができれば、有難い。

自分から、窮地を招かないように、考動。

できる時に、できることを、今に、全力投球、実践。積み重ね。継続の大切さ。

無理はしないように。しかし、甘やかせず、相応の、負荷をかける。

多少、背伸びになるが、気力で、負けない。黄山はじめ、世界を、ひとり旅した実体験。

無駄にはできない。

自分自身を、鼓舞しながら、**今年も、できることを、頑張りたい。**